



# きたよしい

令和元年度  
北吉井小学校だより



9月号 2019.9.9発行

## よりよい教育活動に向けて～学校重点項目に関する自己評価の結果より～

教頭 灘岡 美鈴

保護者の皆様、1学期末には、ご多用の中、「自立・勤勉・協力」の心を育てるアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。教職員・児童についても「評価の観点」に基づいたアンケートを実施いたしました。1～4段階までで評価していただき、4が最も高い評価となっています。下表は、それぞれの項目の平均値及び考察・改善方策をまとめたものです。



評価領域	評価項目	評価の観点	評価(1～4)			○考察及び☆改善方策
			教職員	児童	保護者	
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	小さなトラブルを見逃さず、受容的な態度で児童に対応することを基本として、組織的に課題の解決に努めている。	3.2	3.6	3.4	○ 三者とも、概ね好評価を得ることができた。毎月1回学校生活アンケートを実施し、児童の悩みや問題行動の把握に努めている。また、いじめや不登校など気になる事案については、学級担任だけでなく、学年主任、生徒指導主事、管理職等、教職員全体で共通理解し、組織体制で対応に当たっている。 ☆ 挨拶については、個人差が大きくまだまだ継続した取組が必要である。学校内だけでなく、家庭や地域でも気持ちのよい挨拶ができるよう、児童の委員会による呼び掛けや、各クラスでの取組を更に工夫したい。保護者・地域の皆様もよいお手本を示していただけるよう、ぜひ協力をお願いしたい。
	基本的生活習慣の定着	元気な声での挨拶や返事の定着を図っている。	2.8	3.5	3.1	
	児童理解の促進	一人一人の児童を細かく観察するとともに、児童の情報を共有し、児童理解に基づく教育相談やケース会議等で対応に生かしている。	2.9	3.5	3.2	
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	一人一人に出番(ほめる種)がある学習や活動の場を工夫し、みんなの学習クラブのプリント等を活用するなどして、きめ細かな指導を行っている。	2.9	3.5	3.1	○ 「家庭学習等」については、保護者の評価がやや低くなっている。宿題については、音読・漢字・計算等の基本的な宿題と自主学習を出すことで、学習習慣の定着を図るよう努めた。 ☆ 自主学習については、量だけでなく質的なものも高められるよう、学級で称賛の機会を増やしたり、頑張っている児童のノートを紹介したりするなどして意欲化を図りたい。 ☆ 宿題の量や内容については、学年間で検討の上、足並みをそろえて出すようにする。また、学校や学年等の行事など、時期的なことも配慮していきたい。
	家庭学習の充実	宿題や自主学習の内容や量の工夫、確実な見取り・処理、保護者との協力等により、家庭学習の習慣が定着するよう努めている。	3.1	3.4	2.9	
	学び合い・振り返りのある学習	課題を持ち、自分の考えやその理由や根拠を明確にし、学び合い・振り返りのある学習を行うように努めている。	3.0	3.4	2.9	
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	道徳の時間を中心に、全教育活動を通して思いやり・感謝の心を育てる道徳教育の充実に努めている。	3.1	3.6	3.5	○ 道徳の時間は、ペア学習やグループ学習などを取り入れ、友達と共に課題解決をしたり、一緒に活動する楽しさを味わわせたりすることに努めた。また、友達のいいところを書かせたり発表させたりすることで、互いのよさを認め合う雰囲気づくりに努めた。 ☆ 昨年度から道徳が教科化されている。今後も授業研究等で互いの授業を見合い、協議し合うことでよりよい指導法を工夫していきたい。 ○ 「早寝・早起き・朝ご飯」と「自然体験・社会体験活動」について、教職員の評価がやや低かった。特に、早寝については、児童の実態把握や家庭への啓発なども十分ではなかったと考えられる。 ☆ 「早寝・早起き・朝ごはん」の実態や自己チェック表による意識付けのためのシートを工夫するなど、委員会からの働きかけも検討したい。また、早寝については、テレビやゲームの視聴時間等についても指導していきたい。
	仲間づくり・集団づくり	自分の大切さとともに他の人の大切さを認めながら、仲間意識に支えられ、互いに協力のできる集団の育成に努めている。	3.1	3.7	3.5	
	健康づくり・体力づくり	家庭と連携して、「早寝・早起き・朝ご飯」の意識付けと健康・安全意識の向上に努めている。	2.8	3.6	3.3	
	体験活動の充実	自然体験・社会体験活動を充実させ、自律心の育成を図っている。	2.8	3.6	3.0	
特別支援教育	特別支援教育の充実	校内の支援体制を整備し、巡回相談等の専門家の意見などを参考に、一人一人のニーズに応じた支援を行っている。	2.8	3.3	3.2	○ 巡回相談員等の専門家の意見を参考に、指導に生かすことができた。 ☆ 今後もコーディネーターを中心に関係諸機関との連携を図り、一人一人のニーズに応じた指導に努めたい。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	家庭や地域と連携して、登下校時の安全確保に努め、児童の安全への意識を高めるよう配慮している。	3.1	3.7	3.4	○ 生徒指導主事を中心に登校指導を毎日行い、その様子を基に集団下校の際に指導したことにより、日々の様子を生かした具体的な指導ができた。 ☆ 上手に登下校ができている班とそうでない班がある。登下校の安全確保は命にかかわることであるので、危険個所についての指導やマチコミメールなどによる保護者・地域への協力依頼も継続して行いたい。 ☆ 避難訓練、防災訓練については、様々な場を想定して実施していく。引き渡し訓練についても体育館等での引き渡しについても検討していきたい。
	防災教育の充実	避難訓練・防犯訓練等を適切に実施し、児童に適切に行動できる安全対応能力が育っている。	2.9	3.7	3.0	
	食の安全と食育の充実	給食の安全を確保すると共に、食育を推進している。	3.1	3.4	3.2	
家庭・地域との連携	開かれた学校づくり	地域の人材や教育資源を生かした教育活動がなされている。	3.0	3.4	3.0	○ 各学年、生活科や総合的な学習の時間を活用し、地域に出向いたり、地域の方に来ていただいて指導を受けたりする学習を展開することができた。 ☆ ホームページが2学期から新しい形にリニューアルした。積極的に記事が更新できるよう情報主任を中心に、情報発信に努めたい。
	情報の共有化	児童の様子について積極的に学校の様子を伝えたり学校だよりやホームページ等で学校の情報を積極的に発信したりして情報の共有化に努めている。	2.9	3.4	3.3	
特色ある学校づくり	青少年赤十字活動の充実	JRC活動への主体的な参加を通して、奉仕と協働の精神を培っている。	3.0	3.5	3.0	○ JRC委員会を中心に、朝のボランティア清掃を呼び掛け、様々な学年が協力し合って活動することができた。 ☆ 学年行事や授業研究なども積極的に行い、学年に応じて奉仕の精神を培っていききたい。
施設・設備の充実	施設・設備の安全管理	安全点検等による潜在危険箇所の早期発見と除去に努めている。	3.1	3.7	3.2	○ 「教育機器の利用」について保護者の評価が低かった。「教員が授業の際に、テレビやパソコンを活用して指導する」というアンケートの意図が伝わっておらず、「児童が使用する」と受け取られたということも推測される。 ☆ 定期的な安全点検により、早期の危険箇所の除去及び修繕に努めるとともに、教育機器の有効活用に向け、研修を充実させたい。
	教育機器の有効活用	大型テレビやパソコンなどの教育機器を、有効活用している。	3.1	3.6	2.6	